

一般大気環境測定結果

年度	測定場所	二酸化窒素(NO ₂)						一酸化窒素(NO)			窒素酸化物(NO+NO ₂)			
		年平均値	環境基準との対比				1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	NO ₂ /NO+NO ₂ (年平均値)
			1日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合	1日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合	(ppm)	(日)								
19	飛島村松之郷	0.020	0	0.0	2	0.6	0.075	0.021	0.009	0.273	0.011	0.029	0.321	67.6
	全県平均	0.017	-	-	-	-	-	0.019	0.008	-	0.010	0.025	-	-
20	飛島村松之郷	0.018	0	0.0	0	0.0	0.088	0.020	0.008	0.151	0.009	0.026	0.195	70.2
	全県平均	0.016	-	-	-	-	-	0.017	0.007	-	0.008	0.022	-	-

自動車排気ガス測定結果

年度	測定場所	二酸化窒素(NO ₂)						一酸化窒素(NO)			窒素酸化物(NO+NO ₂)			
		年平均値	環境基準との対比				1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	NO ₂ /NO+NO ₂ (年平均値)
			1日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合	1日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合	(ppm)	(日)								
19	公民館分館	0.031	0	0.0	75	22.1	0.095	0.030	0.052	0.482	0.056	0.082	0.553	37.4
	全県平均	0.027	-	-	-	-	-	0.030	0.029	-	0.035	0.056	-	-
20	公民館分館	0.028	0	0.0	46	14.8	0.082	0.031	0.047	0.270	0.052	0.074	0.342	37.4
	全県平均	0.025	-	-	-	-	-	0.027	0.027	-	0.029	0.052	-	-

愛知県環境部「あいちの環境」より抜粋

環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm から0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。(昭和53年7月11日 環境庁告示)

二酸化窒素(NO₂) (にさんかちっそ)

大気中の窒素酸化物の主要成分。物の燃焼で発生した一酸化窒素が空気中で酸化して生成する。窒素酸化物の毒性の主要成分である。

一酸化窒素(NO) (いっさんかちっそ)

窒素酸化物(NO_x)の一つ。物が燃焼するとき発生する窒素酸化物は、はじめ90%以上がNOとして発生するが、大気中で酸化されNO₂に変化する光化学スモッグや酸性雨の成因に関連する。

窒素酸化物(NO_x) (ちっそさんかぶつ)

空気中で石油や石炭等の物の燃焼、合成、分解等の処理を行うとその過程で必ず発生するもので、燃焼温度が高温になるほど多量に発生する。窒素酸化物は人の健康に影響を与える。また、窒素酸化物は紫外線により炭化水素と光化学反応を起こし、オゾンなど光化学オキシダントを生成する。